

## 9 2. <謎の注意書き>

下水処理の最終段階は消毒です。消毒には色々な方法がありますが、一般的に広く用いられている方法は、次亜塩素酸ナトリウムの添加です。次亜塩素酸ナトリウムは、次亜塩素酸ソーダとも呼ばれ、化学式は NaClO、強アルカリ性の薬剤で、水道でも消毒に多く使用されています。プールの水の消毒にも良く使われていますね。

さて、下水処理の経験がある方なら、ご存知かと思いますが、次亜塩素酸ソーダの容器には取扱い方法について、いくつもの注意が書いてあります。その中に、なぜか「ゴマに対して使用してはならない」というのがあります。

私は、以前、実験プラントの脇においてある 20 L 入り次亜塩素酸ソーダ容器の注意書きの中に、初めてこの文章を見つけた時には、何故、こんな事が書いてあるのか、大いに悩みました。考えたのは、ゴマの成分中の何かと次亜塩素酸ソーダが反応すると、有害物質や有毒ガスが生成するか、あるいは、場合にはよっては爆発の危険性があるのではないかということでした。

しかしながら、どう考えても、ゴマに次亜塩素酸ソーダをかけて、そのような有害物質が生じるとは思えず、更に調べたところ、ようやく理由がわかりました。その理由とは、何のことは無い、「黒ゴマを次亜塩素酸ソーダで漂白したものを、より価格の高い白ゴマと称して販売してはいけないから」ということでした。胡麻化してはいけないということですね。

さて、ここで、「ごまかす」という言葉の語源なのですが、江戸時代に「胡麻胴乱（ごまどうらん）」という胡麻菓子（ごまかし）があり、その中は空洞になっていたため、見掛け倒しのたとえに用いられたことからという説があるそうです。（注）

「次亜塩素酸ソーダを使って、黒ゴマを白ゴマに変えて売ったことから、『胡麻化す』ごまかすというように言うようになった。」というのも、語源の由来として十分な説得力がありますね。

江戸時代までには、さかのぼれないのが、この説の弱点ですが、飲む時の酒の肴くらいには使えそうです。

（注）語源由来辞典

<http://gogen-allguide.com/ko/gomakasu.html> による

<技術開発部長 村上孝雄>

※ J S 技術開発情報メール No. 100 号(2010/3/9)に掲載